宗教文化研究所韓国訪問調査について

栗津賢太

AWAZU Kenta

南山大学国際化推進事業（第 2 期）による「東アジアのキリスト教」研究のため、2013 年 3 月 1 日（金）から 5 日（火）までの 5 日間の日程で、韓国にて現地調査・インタビュー調査を行った。これには、奥山倫明所長をはじめ、ジェームズ・ハイジック、ポール・スワンソン、金承哲第一研究所員、長澤志穂、粟津賢太研究員、寺尾寿芳非常勤研究員の７名が参加した。主な内容は以下のとおりである。

3 月 2 日

Andrew Eungi Kim 高麗大学教授 (Division of International Studies) の協力の下、同大学、国際研究ホール 115 号室にて、ワークショップ“Christianity in East Asia（東アジアにおけるキリスト教）”を開催した。

第 1 報告は、Young Jin Min 教授 (Methodist Theological Seminary, Theology of Old Testament) による “Equivalents for the Deity in Chinese Versions of the Bible and Their Implication in Korean Translation” と題する報告で、ジェームズ・ハイジックがレスポンスを行った。第２報告は、Sung Gun Kim 教授 (Seowon University, Sociology of Religion) による “Korean Pentecostal Christianity: Its Reasons for Success and Challenges for Future Research” と題する報告で、ポール・スワンソンがレスポンスを行った。第３報告は、Shin Ahn 教授 (Paichai University, Study of Religion) による “Theologies and Faith in Korean Christianity: A Phenomenological Interpretation” と題する報告で、金承哲がレスポンスを行った。

3 月 3 日

韓国最大のメガチャーチといわれるヨイド純福音教会を見学し、第 4 回目の礼拝（午後 1 時）に参加した。ミサでは、Rev. Cho Yong Gi の説教があった。また、その後、セムナン教会を見学した。

3 月 4 日

韓国の宗教研究における代表的な知識人である吉熙星（Keel Hee-Sung）氏の主催する研究所（Incheonsi Ganghwagun）を訪問し、東アジアにおけるキリスト教について専門的かつ有益な知識の提供を受けた。なお吉氏の講演を以下に掲載する。

今回の訪韓は、全体として、今後の研究・調査の展望が開けるような、有益な機会となった。

あわづ・けんた
南山宗教文化研究所研究員